

令和5年3月23日

瀬戸市

市長 伊藤 保徳 様

提 言 書

～インクルーシブパーク整備の実現に向けて～

都市活力委員長 西本 潤

1 はじめに

国土交通省の調査研究によると、都市公園の新たなステージにおいて、これまでには経済成長、人口増加等を背景とし、緑とオープンスペースの量の確保を進めるものであったが、少子高齢化、人口減少、施設の老朽化の進展により、社会の成熟化、市民の価値観の多様化、都市インフラの一定の整備等を背景とし、緑とオープンスペースが持つ多様性を、都市のために持続可能な魅力あふれる高質都市の形成、地域のために個性と活力ある都市づくりの実現、市民のために市民のクオリティオブライフの向上などを最大限に引き出すことを重視するステージに移行してきている。

本市においても 276 か所ある公園の中で、少子化により、子どもが遊ばなくなった公園、地域での管理ができず草が生え放題の公園、住民の高齢化などの変化により、地域の実情に合わなくなった公園も多く存在している現状がある。

瀬戸市議会が令和3年度に行ったせとまちトークアンケートでは、公園整備に関する意見が多くあったことを受け、都市活力委員会において「魅力的な都市公園等整備」を調査研究テーマに追加設定した。

今後、地域の実情に合った適正な配置、整備を行っていく必要があり、本市の魅力的な都市公園整備に繋げるため、先進的な取り組みの調査・研究を行った。

2 調査・研究の概要

都市活力委員会では、今後の公園整備を行ううえで、多様化する市民ニーズや、持続可能な管理体制など、既存の捉え方によらない新たな取り組み事例を学ぶ必要性を感じた。

そのうえで、先進自治体の取り組む事例を学び、瀬戸市での活用について検討を行った。

○先進事例研究

・インクルーシブパーク（障害の有無等に関わらず誰もが利用できる公園）について

- ・視察先
豊川市豊川公園

- ・概要

豊川公園は、市の中心市街地に位置し、幅広い市民に親しまれる市を代表する都市公園の「子ども広場」として、他の都市公園にない役割、機能が求められた。

市民意識調査の公園に求められることの中で、「身近で親しみやすい公園」、「公園のバリアフリー化」が上位にあがっていたため、「誰もが遊べる広場づくり」を目指し、年齢や身体能力に関係なく、誰でも一緒に遊べる遊具の設置、インクルーシブの概念に基づいた遊具の設置を行っている。

- ・事業費

整備面積 1,800 m²の費用として、約 5,800 万円

- ・事業の効果

市役所に隣接する中心拠点に位置することから、付近に居住する人たちの利用に供することのみならず、身近で親しみやすい公園であり、バリアフリー化などにより、年齢や身体機能に関係なく、誰でも一緒に遊べる広場となっている。

- ・事業の現時点での課題及び今後の方向性

特に大きな課題はなかったが、他の施設が集約されているため、利用者が集中した場合の駐車場の確保が課題であると感じた。

- ・委員会所感

インクルーシブ遊具の価格は通常の遊具の約 1.5 倍程度であるものの、市民福祉の向上にも繋がり、真に効果のある障害者施策の観点からも本市でも取り組んでいってもよいのではと感じた。

- ・パーク P F I（公募設置管理制度）について

- ・視察先

豊川市赤塚山公園

- ・概要

民間活力による新たな都市公園の整備手法を創設し、公園の再生・活性化を推進することを目的とし、公募設置管理制度（パーク PFI）が導入された。都市公園において、飲食店、売店等の公園施設の設置または、管理を行う民間事業者を募る公募を行い、株式会社 イトコーが選定された。

- ・事業費

飲食物販施設（公募対象公園施設）は民設民営。休養施設（特定公園施設）は、整備後、市に引き渡しされるので、建設費約 2,000 万円のうち 200 万円を地元業者、残りを市が負担している。

- ・事業の効果

令和 5 年 4 月頃オープン予定のため、オープン以降に検証していきたい。

- ・事業の現時点での課題及び今後の方向性

公募の説明会には 11 団体が参加したものの、公募の結果としては、1 社の応募であった。この 1 社も地元業者であり、地域貢献を優先した採算度外視でのエントリーという面もあったと思われる。一定の集客力を有した赤塚山公園でも、ほとんどの民間事業者が参入の意思を示さなかったということに厳しい現実があると感じた。

- ・委員会所感

パーク PFI は飲食物販に限ったものでもなく、保育所や福祉施設などの例もあるため、民間事業者の収益性というよりは民間事業者が公園内に設置する事そのものにメリットを得られる施設が望ましいのではと感じた。

3 提言

本都市活力委員会で「魅力的な都市公園等整備」をテーマに調査・研究してきたことを踏まえ、今後の公園整備について、見解及び提言を示す。

本市では、瀬戸市緑の基本計画において、都市公園等の再構築として、「公園不足地域を優先した公園の整備」「配置バランスを考慮した公園の統廃合」「地域ニーズに応じた機能の創出」を具体的施策として掲げている。まずは本市が掲げた具体的施策の推進が望まれる。

そのなかで本都市活力委員会では、パーク PFI とインクルーシブパークの具体的な先進事例研究を行った。

パーク PFI については、今回の調査研究において、現時点では本市での有効性は見い出せなかったものの、その手法の可能性自体を否定するものではないため、引き続き調査研究が必要であると考えます。

インクルーシブパーク（障害の有無等に関わらず誰もが利用できる公園）については、バリアフリー性の確保、障害者用駐車場からのアクセス性など、適正な配置とする与件はあるものの、地域の実情やニーズという観点からは、障害の有無等に関わらず誰もが利用できる公園の必要性は、否定する余地はない。また、本市は真に効果のある障害者施策を推進していることから、今後、公園整備や更新、統廃合などの検討を行う際の、新たな観点のひとつとして加えることは、魅力的な都市公園整備において、効果的であると考えられることから、次のとおり提言する。

・今後、都市公園整備を行う際は、障害の有無等に関わらず誰もが利用できるという観点が必要であることから、インクルーシブパークの導入について具体的検討を行い、魅力的な都市公園整備に繋げていくこと。